

欧米の医療事情について、私は断片的・個人的な見聞しか持ち合わせないものの、いろいろ驚かされることがあった。英国の研修医が諸待遇の改善を求めてストライキを行ったのは80年代末のことだったと思う。そのとき、BBC ニュースで聞いたのは、手術の助手を行っている最中に寝てしまい医療事故につながったという話だった。当時の私は、「情けない、余りに杜撰すぎる。日本じゃありえない」と思ったが、背景には週に4〜5日程度の当直をこなしながらの日中の業務をこなすという過重労働が存在していた。一方、10年ほど前になるが、同じ英国で、ある大学の医療センターを見学した際に大変驚いたのは、施設内で特別の承認を得ているナースが、PD 治療一般の管理を行うだけでなく、PD カテーテル挿入の手術も行っているという事実だった(!)。また、スウェーデンの世界的に有名な大学では、医師の

夏季休暇は2カ月、教授(男性)も育児休暇で半年以上の休職をとっていた。ちなみに、20年前の話だが、彼の地に在住の日本人が高血圧の診断をされ、半年分の薬剤が処方されたが、その後の診療に対応したのは医学生だった(夏季休暇シーズン中は普通のこと、決して人種差別の事例ではありません)。これらは非常識なのか、それとも世界では常識なのか?

いよいよ本邦で医師の働き方改革が始動する。改革は必然的に医療システムそのものを変質させていくことになると思う。どんな姿になるのか。2021年11月初旬、コロナ禍が突然減速して、狐につままれた感じだが、こんなときだからこそ、発想を切り替えてこれからの透析医療システムを考えてみたい。

(中山 昌明)

2021年(Vol. 37)特集のご案内

- No.① 腎性貧血治療のこれまでと、その新しい展開
- No.② 感染症と医療安全
- No.③ 透析看護分野の看護師の認定・研修制度と社会から求められるもの
- No.④ 透析の開始・継続・見合わせ
- No.⑤ ダイアライザ・ダイアフィルタの今後を考える
- No.⑥ 看過してはならない不整脈
- No.⑦ CKD 診療におけるビタミンと微量元素

- No.⑧ 透析医療における災害対策
- No.⑨ 透析患者の消化管疾患 A to Z [増刊号]
- No.⑩ CKD・透析患者の最近の知見による体液管理
- No.⑪ シームレスな CKD 対策に向けての看護実践
- No.⑫ CKD・透析患者の栄養指導方法と実践
- No.⑬ 透析医療システムの将来と医師の働き方改革

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.37 No.13

© 2021 年 12 月 10 日発行

定価: 2,860 円

(本体 2,600 円 + 税 10%)

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <https://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2021, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話(03)3814-8541